

＜ もくじ ＞	
1. 2018年 年頭の辞	1
2. 2018年連続「読書会」第2回のお知らせ	2
3. 第4回研究会合同イベント「長命時代“しなやかに生きる力”を考える」開催のお知らせ	2
4. 第4回「災害と地域社会」研究会シンポジウム開催のお知らせ	2
5. 研究会からのお知らせ	2～3
6. 各研究会の概要報告	3～4

## 1. 2018年 年頭の辞

明けましておめでとうございます。新しい年が、皆様にとってより良い年になることを心より願っております。

毎年の年頭の辞で、私は日本社会がますます悪い方向をたどりつつあることを嘆き、暗い将来図を描き続けてきました。近年、こうした危機感はいつそう深まったような気がします。国際的にも、国内的にも、「××ファースト」といった自己中心的な姿勢が目立つようになり、自分さえ良ければ、他はどうなってもよい、世の中に苦しむ人がいるのは自己責任であり、自業自得だ・・・こんな雰囲気は充満しています。



シニア社会学会では、「持続可能な超高齢社会をめざして」を3か年のテーマにして大会を行ってきました。2年目にあたる昨年は、井手英策・慶応義塾大学教授の基調講演「分断社会を超えて」によって、現代日本における経済的格差の進行と弱者が弱者の足を引っ張り合うという分断状態が明らかにされました。誰もが受益者になる「頼り合える社会」の構築の必要性が説かれ、それを解く鍵が地域社会にあることが示されました。

今日、世界各地において、社会の分断状況が露わになり、移民や難民への攻撃や追いつめられた人たちによるテロ行為が頻発しています。日本でも、在日韓国・朝鮮人を対象としたヘイトスピーチ、生活保護受給者に対する誹謗、小中学校におけるいじめ、障害者や高齢者に対する虐待など、自分と異なる存在への拒否感が強まっています。ダイバーシティや共生、そして社会的包摂が唱えられるにもかかわらず、実際には、自分と異なる存在を受け入れず、排除する不寛容な態度が、ますます広がっています。なぜこんなことが起きるのか、どうしたらこの状況を変えることができるのか、今こそ真剣に考えなければなりません。

本年6月23日(土)に駒澤大学で開催される大会では、辻哲夫・東京大学高齢社会研究機構特任教授による地域社会のあり方を考える基調講演が行われます。安倍政権が強大な権力をふるう現在、大状況を変えることはかなり困難です。私たちにできるのは、身の回りの小状況から、コツコツと変えていくことではないでしょうか。安心して安全な超高齢社会を持続するためには、「頼り合える社会」をまず身近な地域社会から実現していくことが必要です。できるだけ多くの方々のご参加を期待しております。

2018年元旦

一般社団法人シニア社会学会  
会長 袖井孝子

## 2. 2018年連続「読書会」第2回のお知らせ

前号でお知らせした今年度の読書会第1回は、1月17日に終了いたしました。第2回読書会を以下の通り開催いたします。JAASNews222号の発行日が新年度第1回読書会に重なったこともあり、第3回以降の日程と文献については、今回のお知らせに間に合いませんでした。毎回新しい文献を読み通しますので、いつでも参加可能です。第3回の読書会については、次号でお知らせいたします。

- 1) 日 時：2018年2月14日（水）14：00～16：00
- 2) 場 所：シニア社会学会事務局（渋谷パールビル4階）
- 3) 対象文献： 広井良典『人口減少社会という希望—コミュニティ経済の生成と地球倫理』朝日選書、2013

※ どなたでもご関心のある方は、お気軽にご参加ください。参加ご希望の方は、事務局までメールか電話でご連絡ください。（企画委員会）

## 3. 第4回研究会合同イベント「長命時代 “しなやかに生きる力” を考える」（「ライフプロデュース」研究会発足記念シンポジウム）開催のお知らせ

タイトル変更のお知らせとお詫び：開催日時および内容の変更はありませんが、前回のJAASNews 第221号でお知らせしたタイトルが、今回のものに変更されました。ご迷惑をおかけして申し訳ありません。お詫びして訂正させていただきます。

詳細については、添付のチラシをご参照ください。

- 1) 日 時：2018年3月3日（土）14：00～16：30
- 2) 場 所：駒澤大学 第2研究館 209教室
- 3) 参加費：1000円（学生 500円）
- 4) 申込方法：事務局まで、電話、FAX、メールでお申し込みください。（メールでの申し込み用フォーマット、申込用紙を印刷したチラシを添付しますので、それをご利用ください）

## 4. 第4回「災害と地域社会」研究会シンポジウム開催のお知らせ

「あれから7年～私たちはフクシマを忘れない～  
—首都圏への長期避難者が抱える葛藤と課題—」

詳細については、添付のチラシをご参照ください。

- 1) 日 時：2018年3月17日（土）14：00～17：00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス33号館3階第1会議室
- 3) 参加費：無料
- 4) 申込方法：事務所に電話・FAX、メールにてお申し込みください。

## 5. 研究会からのお知らせ

### (1) 第46回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年1月23日（火）18：00～20：00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：伊藤 勝（江戸川大学名誉教授）
- 4) テーマ：「身を守る教訓とまず行うこと：“Scientific Knowledge in Seconds & First Actions Explained in an Instant”の作成について」
- 5) 参加費：500円（ただし、社会人を除く学生、早稲田大学総合人文科学研究センター

<現代の危機と共生社会>研究部門および、早稲田大学プロジェクト研究所のメンバーは無料)

※お問い合わせは、福原 (fukuhara@jaas.jp) 迄お寄せ下さい

## (2) 第51回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2018年1月25日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室

3) 報告者とテーマ：

① 碓正義さん — お金の話し “お金に世の中は支配されている。お金が権力を支配している。” を通して社会を斬る。

② 安田和紘さん — 持続可能な超高齢社会を「新聞記事切り抜き」から考察する。

4) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) まで、お願いいたします。

## (3) 第108回「社会保障」研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2018年2月21日(水) 17:30~19:30

2) テーマ：「みんなで語ろう、これからの介護！」

3) 話題提供者：佐藤禮子 「認知症の夫の5年介護からの気づきと提言」

(前千葉県立生衛短大講師、カネミ油症被害者支援センター共同代表)

4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室

東池袋1-44-3 池袋I SPタマビル 8階

※ ご質問がございましたら、佐藤まで。090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp

## (4) 新設の研究会「ライフプロデュース」研究会(座長：皆川鞆一) へのお誘い

シニア社会学会に、新しい研究会が誕生します。内容については 前回のJAASNews221号でお知らせしたとおりです。ご参加いただける方を募集しております。

※ 第1回研究会の開催は3月3日の合同イベント終了後になります。参加ご希望の方は、皆川鞆一 (jminagawa1108@kca.biglobe.ne.jp) または中村昌子 (nakamurayoshiko6@gmail.com) までご連絡をお願いします。

## (5) 「シニアのICT活用研究会」の開催について

次回以降の研究会開催は調整中であり、決まり次第あらためてお知らせします。

## 6. 各研究会の概要報告

### (1) 第45回「災害と地域社会」研究会の報告

1) 日 時：2017年12月8日(金) 18:00~20:45

2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室

3) 報告者：小林秀行(明治大学情報コミュニケーション学部専任講師)

4) テーマ：災害復興の描き方に関する研究～復興の目標像を紡ぐことの意義～

東日本大震災からはや6年が経過する。被災地各地は地域の状況に応じて復興を目指してさまざまな困難と課題に立ち向かっています。報告者の小林さんは2016年から2017年にかけて、災害復興という社会過程そのものに関心を向け、災害復興過程は、社会や災害の特性だけに規定されるのではなく、「何が目標にされるのか」に視点を据えることで復興過程の新たなとらえ方ができるという問題意識の下に研究を進めています。そして、これまでの基盤整備型近代復興のとらえ方のなかに一定の法則的過程は見いだせないとし、そのようなとらえ方から、「被災下の地域社会が新たな地域社会の目標像へ至る社会過程」として復興を捉える試みの必要性につ

いて報告されました。つまり、被災直後の状況下で被害の要因を発見し、その時点での社会的課題を探索して早期に計画を立ててその課題を解決しようとするような復興過程では、目標設定と事業期間の間に齟齬が生じるのであり、基盤整備、経済復興、社会復興、生活再建などの過程が、相互に納得できないせめぎあいの中で、地域の人びとが時間の経過とともにさまざまな妥協を重ねながらも、新たな目標を能動的に設定していく過程、つまり長期にわたってオルタナティブの「理念探索」を進めていく過程としてとらえるような復興概念に注目します。そしてその理念は、与えられるべきものではなく、当事者間で理念の提示のバトルが続いている間が復興であるといえます。

次に、この考え方を東日本大震災の各被災地の「復興スローガン」の分析にあてはめた研究結果の報告があり、復興スローガンと復興計画、住民参加などの要因との関係を分析した結果、シンボルが復興をゆがめる可能性があることにも触れています。

最後に、ニュージーランド訪問による、クライストチャーチ地震からの同市の復興過程についての現地インタビュー調査の結果、日本の復興過程との違いについての興味深い報告がありました。詳細について触れることはできませんが、1回の報告の中に3回分にも及ぶ内容が詰め込まれ、参加者との間にさまざまな議論と意見交換が行われました。(長田記)

## (2) 第50回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2017年12月21日(木) 15:00~18:00

2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室

3) 報告者とテーマ

① 駒宮淳子さん — つながりプランナーの仲間づくりはロコモ体操で

② 安田和紘さん — 2018年1月以降の研究会テーマについて

今回は、二人の方からの発表と提案でした。駒宮さんは、「つながりプランナー」として地域で日ごろ活動されている状況について生き生きと発表された。「つながりプランナー」は医療生協さいたまの組合員や地域住民の健康づくり・仲間づくりをすすめるボランティア(有償・有期)であり、3年目を迎えること。健康広場(サロン)と安心ルーム(やすらぎカフェ)の2つのジャンルがあり、ご自身は最近話題のロコモ体操に着目し、インストラクター養成講座を受講し資格を取り、「ロコモ体操教室」を開催している。気持ちとしては、悩みもあるが新たな出会いや発見があり、収入はわずかでも挑戦の喜びとやりがい最大の報酬であると感じ活動している。と述べられた。

安田さんは、去る2017年11月2日(木)に大磯コミュニティ・カレッジで発表した『新聞紙面から見えてくる社会の姿～格差・貧困・分断の問題を中心に』の資料を1回で終わらせることは勿体ないことから、当研究会で改めて発表したらどうかという濱口座長の提案を受けて、当研究会の次のテーマを探すための切り口として発表された。当テーマの目的としては、新聞記事を通じて社会の構造を把握し、格差・貧困・分断の連鎖を断ち切るために、これからのあるべき社会とそれを実現する方策を考え出すこととする。

意見交換の結果、次回改めて報告いただくことになった。

(島村記)

一般社団法人シニア社会学会・事務局(月・水・金オープン)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階

電話&FAX:(03)5778-4728

eメール: [jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) URL: <http://www.jaas.jp/>